

Ecological Network

# 川からはじまる 川から広がる 魅力ある 地域づくり



河川を基軸とした  
生態系ネットワークの形成



川からはじまる

川から広がる

魅力ある

地域づくり

SDGs 社会・経済の土台となる、自然環境	1
河川を基軸とした 生態系ネットワーク	2
シンボルとなる生きもの	3
自然再生×防災減災×地域振興	4
3省の連携	6
全国で展開している取組	8
石狩川流域	10
東北全域	12
越後平野	13
関東地域	14
木曾三川流域	16
福井県全域	17
円山川流域	18
桂川流域	20
斐伊川流域	21
四国圏域	22
遠賀川流域	24
財政支援	25

国土交通省は、全国各地で、「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」を進めています。このパンフレットでは、生態系ネットワークとは何なのか、また、各地で行われている取組を紹介しています。

河川を基軸とした魅力のある地域づくりに、ぜひ多くの方に取り組んでいただけるよう、役立つものとなれば幸いです。

# SDGs

## 社会・経済の土台となる、自然環境

「SDGs」の17の目標の達成に向けて、国、自治体、企業など様々な主体が取組を進めています。下図は、その17の目標の関係を整理した図の例です。自然環境が私たちの社会・経済の土台であること、すなわち、多様な生きものを含む自然環境の保全・創出が地域振興・経済活性化などの社会・経済上の課題の解決につながっていくものであることを示しています。

今、気候変動等の影響により、水害の更なる激甚化が予測されています。国土交通省では、河川管理者等のこれまでの川を中心とした取組に加え、流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる「流域治水」への転換を、令和2年に打ち出しました。また、その流域治水を、湿地や森などの自然環境が持つ治水機能を活かしつつ進めていくことにしています。そうした湿地や森は、近年、「グリーンインフラ」と呼ばれ、その保全・創出は、同時に、多様な生きものを含む自然環境の改善にもつながるものです。

令和4年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議において採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」に、2030年までに、生物多様性の損失を止め反転させること、そのため2030年までに陸と海の30%以上を保全すること等が盛り込まれました。現在、その目標の達成に向け、様々な取組が進められており、自治体、流域、さらに広域の「生態系ネットワークの形成」は、その取組の一つです。



出典:Azote Images for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University (CC BY4.0)を基に加筆作成

国土交通省は長年の河川整備の取組を通じて、流域の市町村、NPO、学校などの多様な主体とのつながりを築いてきました。このつながりを活かし、川の中を主とした事業から、広域の枠組みとなる流域の「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」を進めています。流域の農地や緑地などにおける取組とも連携し、自治体の魅力的で活力のある地域づくりやSDGsの達成を支援しています。

## 01 「川の中」の事業から「流域」連携へ

# 河川を基軸とした生態系ネットワーク

森林や農地、都市などを連続空間として結びつなげる川は、生態系ネットワークの重要な基軸です。また、流域でまとまった自然環境を保つ、貴重な空間でもあります。

〔写真〕日本生態系協会



## 生態系ネットワークとは

生物多様性が保たれた国土を実現していくために、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につないでいく、それが生態系ネットワークです。生態系ネットワークの形成は、生物多様性を保つだけではなく、社会・経済面での様々な効果を地域にもたらします。

この取組は、エコロジカル・ネットワークとも呼ばれています

生きものの生息する環境が、地理的に連続している場合のほか、渡り鳥の飛来地のように、地理的に連続していない場合も、ネットワークに含まれます。

# シンボルとなる生きもの

その地域の環境条件を示す生きもの「指標種」を選ぶことで  
目指すゴールや計画を共有しやすくなります。

1

## 生態系の 広域的なつながり

### を示す指標種例

流域から地方、全国そして世界へと移動する鳥は、生態系ネットワークの広域的なつながり  
を示す良いシンボルです。とくに大型の水鳥類  
は目立つので、多くの人に取組の効果を実感  
してもらいやすい生きものなのです。



ナベヅル



マナヅル



タンチョウ



マガン



ヒシクイ



シジウカラガン



オオハクチョウ



コハクチョウ



[写真]豊岡市

コウノトリ



トキ



イタセンバラ



ハリヨ



サケ



モクズガニ



ナゴヤサナエ



ウナギ

2

## 流域内の生態系の つながりや地域性

### を示す指標種例

上・中・下流や支川・水路・水田・池沼など、様々な流域内のつながりがあることで、生息している魚類や昆虫などがいます。地域の固有性や希少性、歴史・文化、生活との関わりを示す生きものも多く、地域の特色を表す良いシンボルとなります。

[写真]日本生態系協会(コウノトリをのぞく)

### 03 地域の潜在的な特徴を活用

多様な効果を発揮

# 自然再生



# 防災減災



# 地域振興

生態系ネットワークの形成は、流域の住民、農業関係者、NPO、学校、企業、自治体、河川管理者など、様々な主体の連携が欠かせません。それぞれの取組一つ一つが、自然環境を豊かにするだけでなく、治水、地域への愛着の醸成、経済の活性化など、社会・経済上の効果につながっていきます。

#### ことばの解説

- 【江 え】 水田内に設けられた素掘りの溝。農作業のため田の水が落とされた時でも、ここには水があるため魚類が生息できる。
- 【エコツーリズム】 地域の自然環境や歴史文化を活かした観光。その価値の普及で、地域の活性化とともに自然環境の保全などがさらに進む。
- 【魚道 ぎょどう】 落差のある場所を魚が行き来できるようにするための施設。
- 【砂礫河原】 砂や小石からなる河原。特有の植物、昆虫や鳥が生息。
- 【冬期湛水(ふゆみずたんぼ)】 冬に田に水を張ること。カエル類の産卵場やガン・カモ・ハクチョウ類の休息場所となったり、雑草が茂ることを抑えたりする。
- 【樋門 ひもん】 川側とまち側の間の水流調節のために付けられた施設。落差があり魚が行き来できなくなっていることがある。
- 【遊水地・調節池】 洪水時に川の水を一時的に貯めて下流に流れる水の量を減らすための場所。
- 【ワンド】 河川敷の池状の入り江。魚の産卵場所、洪水時の避難場所にもなる。

期待できる効果

## 地域の特産品を使用した

## 商品ブランドを展開

→ 地域の農産物や加工品のオリジナル商品化や、自然環境に配慮した商品等のPRが可能に

有機・減農薬による栽培

樋門部分などの落差解消

旧流路や河跡湖の保全・再生

期待できる効果

## 災害を未然に防いだり

## 被害を減らす

→ 池や沼、農地、森などが各所で雨を受け止め、洪水の発生を抑え、まちの安全性が高まる

○○○○○

→ 必要な取組

期待できる効果

## 里山の再生で

## 魅力ある景観に

→ かつての里山の景色が見直されている今、地域の風景を大切にすることで、来訪者や住民の注目が集まる

奥山の森の保全

砂礫河原の保全・創出

魚道の設置・改良

冬期湛水・江の設置

水田魚道の設置

自然豊かな遊水地・調節池の整備

有機・減農薬による栽培

里山林の保全

期待できる効果

## 水辺の生物多様性が

## 豊かに

→ 生きものの数や種類が増え、大型水鳥なども飛来しやすい環境に

期待できる効果

## 生きものや自然を活かした

## エコツーリズム

→ 大型水鳥類や地域の生きものなど、自然を活かした観光で、国内外の来訪者の集客へ

良好な池や沼、湖の保全

湿地の保全・創出

期待できる効果

## 自然が身近な

## 愛着のもてるまちへ

→ 日々の暮らしに自然があることで、地域への愛着や住環境としての満足度が高まる

期待できる効果

## 自然体験や

## 環境学習の場へ

→ 住民や学校、企業などの水辺利用が増えることで、自然環境や地域への理解が深まる

## 3省の連携

国土交通省、農林水産省及び環境省は、流域の生物多様性の保全、それを通じた流域自治体の地域振興・経済活性化に向け、各省の情報を共有しつつ、様々な取組を進めています。

また、生態系ネットワーク形成がもたらす流域自治体への社会・経済面での効果を、実践事例の紹介を通じて一般に広くお知らせするために、3省連携による全国フォーラムを定期的に開催しています。

### 国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure,  
Transport and Tourism

国土交通省では、「多自然川づくり」を進めています。多自然川づくりとは、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことを指し、これをすべての川づくりの基本としています。また、流域治水の推進に当たり、自然環境が有する多様な機能を活かしたグリーンインフラの活用を推進し、災害リスクの低減に寄与する生態系の機能を積極的に保全又は再生することにより、生態系ネットワークの形成を推進しています。



湿地の保全・創出

円山川 兵庫県 【写真】(公財)リバーフロント研究所



旧流路・河跡湖の保全・再生

荒川・三ツ又沼ビオトープ 埼玉県



砂礫河原の保全・創出

北上川 岩手県



蛇行部の保全

境川 神奈川県 【写真】吉村伸一



魚道の設置・改良

仁淀川 高知県 【写真】(公財)リバーフロント研究所



片側のみ拡幅

黒川 栃木県



自然な水際の創出

いたち川 神奈川県 【写真】吉村伸一



ワンドの保全・創出

江戸川 東京都



自然豊かな遊水地・調節池の整備

渡良瀬遊水地 栃木県等



# 農林水産省

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

農林水産省では、環境保全型農業や、農業・農村の持つ多面的機能を支える地域共同で行う活動等の支援を行っています。また、森林の有する多面的機能の発揮に資するため、植栽、下刈り、間伐、人工林の広葉樹林化、路網整備等の森林整備を実施するとともに、地域住民等による森林の保全管理活動等の取組を支援しています。さらには、漁業者等が行う藻場・干潟等の保全、内水面の生態系の維持・保全等の水産業・漁村の多面的機能の発揮に資する地域の活動を支援しています。



冬期湛水水田



水路と水田を結ぶ水田魚道



人工林の広葉樹林化



藻場・干潟等の保全(流域における植林)

# 環境省

Ministry of the Environment

2022年12月に開催された生物多様性条約COP15で採択された2030年までの新たな世界目標である昆明・モンリオール生物多様性枠組では「2030年までに陸域と海域の少なくとも30%を保全」する「30by30目標」が位置付けられました(日本は現在陸域20.5%、海域13.3%)。その達成に向けて、国立公園などの保護地域の拡大に加え、企業の森・敷地内の緑地、ビオトープ、社寺林など保護地域以外の場所で生物多様性保全が図られている場所(OECM)を「自然共生サイト」として認定する仕組みを2023年度から開始します。自然共生サイトでは、保護地域にはなじみにくい、持続可能な生業が営まれている森林施業地や農地等も含めて認定し、生態系ネットワークの構築にも貢献していきます。



# 全国で展開している取組

流域を中心とした協議会が設立され、生態系ネットワーク形成を進めています。

河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向け、農家、NPO、企業、金融機関、学識者、自治体、国の関係機関などで構成された協議会が設けられています。生物多様性の重要性についての理解を深め、シンボルとなる生きものや、社会経済面での目標を定めるなど、連携して様々な取組を進めています。

3

## 越後平野

信濃川流域・阿賀野川流域

指標種 ▶ ガン類、ハクチョウ類、トキ

- 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会  
令和元年7月～

6

## 福井県全域

九頭竜川流域他

指標種 ▶ コウノトリ等

- 福井県流域環境ネットワーク協議会  
平成27年10月～

7

## 円山川流域

指標種 ▶ コウノトリ

- コウノトリ野生復帰推進連絡協議会 平成15年7月～

9

## 斐伊川流域

指標種 ▶ 大型水鳥類

- 斐伊川水系生態系ネットワークによる  
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会  
平成27年4月～

11

## 遠賀川流域

- 遠賀川流域生態系ネットワーク形成推進協議会  
平成30年8月～

10

## 四国圏域

吉野川・四万十川他

指標種 ▶ ツル、コウノトリ等

- 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 平成30年2月～
- 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会 令和3年1月～
- 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会 令和元年12月～

## 石狩川流域

1

指標種 ▶ タンチョウ

- タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 平成28年9月～

## 東北全域

2

岩木川流域、北上川・鳴瀬川流域

指標種 ▶ 大型水鳥類等

- 東北生態系ネットワーク推進協議会 平成29年12月～
- 岩木川流域生態系ネットワーク検討委員会 令和3年1月～

## 関東地域

4

利根川流域・荒川流域

指標種 ▶ コウノトリ、トキ

- 関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 平成26年2月～
- コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会(江戸川・利根川・利根運河地域) 平成27年1月～
- 渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会 平成27年11月～
- 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会 平成29年11月～

## 木曾三川流域

5

指標種 ▶ イタセンパラ等

- 木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会 平成27年1月～

## 桂川流域

8

指標種 ▶ 鳴く虫

- 鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会 令和5年2月～

### [行政計画等における位置づけ]

生態系ネットワークの形成は、国土形成計画(全国計画)、環境基本計画、生物多様性国家戦略、社会資本整備重点計画、国土交通省環境行動計画等に位置づけられています。また、流域治水関連法案に対する衆議院・参議院両国土交通委員会附帯決議にも位置づけられています。

#### 国土交通省環境行動計画(令和3年12月27日)

生物多様性の保全や健全な水循環の確保に資するよう、河川を基軸とした生態系ネットワークの形成、かわまちづくり等の魅力ある水辺空間の創出を図るとともに、地方公共団体、市民、河川管理者、農業関係者等の多様な主体による流域連携等を通じて、水と緑を活かした広域的な生態系ネットワークの取組の推進を図る。

#### 生物多様性国家戦略2023-2030(令和5年3月31日)

湿地等の再生、魚道整備等による魚類の遡上・降下環境の改善等を推進するとともに、地方公共団体、市民、河川管理者、農業関係者等の多様な主体の連携により、河川を基軸とした生態系ネットワーク形成の取組による流域の生態系の保全・創出を推進する。

# 100年を超えて再び繁殖、 タンチョウを道央圏の財産に

北海道を代表するタンチョウは、現在は生息域が道東に集中していますが、かつては道内各地に生息し、本州にも飛来していました。開拓や乱獲によりタンチョウが姿を消した道央圏において、タンチョウを呼び戻し、地域活性化にも活かす取組を行っています。

タンチョウの生息環境面の取組として、洪水調節のために造られた千歳川遊水地群の一つである舞鶴遊水地の植生や水環境を管理し、繁殖期の立入制限や地元農家が設立した「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」が主導する見守り活動を通じてタンチョウが営巣しやすい環境を整備しました。取組開始後、度々タンチョウが飛来するようになり、令和2年に道央圏では100年以上ぶりにタンチョウのヒナが誕生。大きな反響を呼びました。その後も継続して子育てが行われるとともに、流域各地にもタンチョウが姿を見せています。

地域づくり面では、舞鶴遊水地がある長沼町において、農業や観光の振興に取り組んでいます。これまで、町広報誌でのタンチョウ紹介記事連載、学校での環境学習、舞鶴遊水地を活用したイベント、タンチョウとの共生の先進地である鶴居村との子ども交流ツアー、町内事業者と連携し、地元産の米や野菜等を使った商品開発・販売、札幌市内での情報発信や商品販売などを行ってきました。また、近年は地元ガイドの養成、北海道中央バス(株)や(株)JALスカイ札幌などと連携したバスツアーの開催など、取組が発展しています。



舞鶴遊水地で子育てをするタンチョウ

[写真]上.タンチョウも住めるまちづくり検討協議会、下.環境省・一般社団法人タンチョウ研究所





**JALとの連携**

左.子どもたちと「スノーアート」を制作  
 中.閉校した舞鶴小学校で、タンチョウや地域の魅力を知る勉強会を開催  
 右.JALと連携したバスツアーで提供された町産農産物を使った機内食風ランチ  
 [写真]左、中:長沼町



左.舞鶴遊水地  
 上.北海道テレビ放送制作のドキュメンタリー  
 下.科学技術映像祭で内閣総理大臣賞を受賞  
 [写真]上下.北海道テレビ放送(株)



1.住民ガイドが舞鶴遊水地やタンチョウの解説  
 2.鶴居村とのタンチョウ子ども交流ツアー  
 3.商業施設での情報発信・関連商品販売  
 4.「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」のタンチョウ見守り活動  
 5.タンチョウをシンボルに開発された商品  
 [写真]1,3.長沼町、2.久井貴世

## 大型水鳥類が羽を休める地、 水辺から東北の魅力を高める

東北には個性に富む12水系の一級河川が流れ、その流域に存在する多くの湖沼やため池等の水辺は、東北でなじみのあるガン類やハクチョウ類を始めとする、広域を移動する大型水鳥類等の中継地や越冬地となっており、中にはラムサール条約湿地に登録された国際的に重要な水辺も含まれているなど、豊かな自然が維持されています。

東北地方整備局では、岩木川流域及び北上川・鳴瀬川流域をモデル流域とし、各流域にて生態系ネットワークの形成に向けた将来像とその実現に向けて、検討委員会、さらに河川をフィールドに活動する方々が参画するワーキンググループを立ち上げ、具体的な方策の検討を進めています。「東北生態系ネットワーク推進協議会」は、東北特有の豊かな自然を活かした持続可能な地域の魅力向上を目指し、各流域における取組の状況を把握し、助言を行っています。



岩木川流域生態系ネットワーク検討委員会

上.ハクチョウ類 中.ガン類(マガン) 下.マガンの朝の飛び立ち  
[写真]下.日本生態系協会

## ガン類・ハクチョウ類・トキが舞う 地域のにぎわいを目指して

越後平野には、日本を代表する信濃川、阿賀野川が流れ、ラムサール条約湿地の佐潟、瓢湖を始め、福島潟、鳥屋野潟などの多数の潟、池が点在し、これらの周辺には水田が広がっています。それらは、ガン類やハクチョウ類といった大型水鳥類の国内有数の越冬地となっています。また、佐渡から飛来したトキの姿も見かけることもあります。越後平野の河川、潟、水田などの多様な水辺環境は、動植物にとって重要な生息・生育・繁殖環境であり、地域住民の憩いや癒しの場としても親しまれています。

北陸地方整備局では、農林水産省、環境省、新潟県、関係自治体、学識者、関係団体などが参画する「越後平野における生態系ネットワーク推進協議会」を令和元年に設置し、ガン類、ハクチョウ類、トキを指標種とした生息環境づくりや地域づくり等の実現に向けた取組を進めています。



1. 信濃川下流 2. 信濃川  
3. 阿賀野川 4. 展開のイメージ図



左. ガン類 (オオヒシクイ)  
中. ハクチョウ類 (コハクチョウ)  
右. トキ  
[写真] 日本生態系協会

## 広域的な連携が支えた 絶滅後初、東日本での野外繁殖



「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」では、関係自治体、市民団体、学識経験者、環境省、農林水産省等と協働したコウノトリ・トキをシンボルとした関東広域での生態系ネットワーク形成に取り組んでおり、令和4年3月に基本計画を改定し、新たな目標を設定しました。大きな拠点となる渡良瀬遊水地・利根運河周辺・荒川の各エリア協議会では、生息環境整備に加えて地域振興・経済活性化に向けた取組や地域間交流を含めた環境学習等を行っています。現在、利根川下流についてもエリア協議会の設置検討を進めています。また、自治体を中心とした取組としては、千葉県野田市が令和4年までに15羽のコウノトリを放鳥、埼玉県鴻巣市が令和3年から放鳥を視野に入れた飼育を開始、栃木県小山市では渡良瀬遊水地を核とした生息環境づくりやエコツーリズム等の取組を進めています。さらに「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」が、令和4年に「トキと共生する里地づくり取組地域」の「トキとの共生を目指す里地」に選定される等の多様な取組を行っています。これらの成果として、令和2年春に渡良瀬遊水地において東日本で、絶滅後初めてのコウノトリの野外繁殖が実現し、関東の複数個所で飛来・滞在が確認されており、着実にコウノトリが増えています。

今後も、河川を基軸とした流域の生態系ネットワーク形成、にぎわいのある地域づくり・経済活性化を推進する取組が広がるよう各主体が協働・連携していきます。



渡良瀬遊水地で採食するコウノトリ [写真] 日本生態系協会

1. 渡良瀬遊水地ガイドの様子
  2. 食・農・環境教育として実施している「いすみ教育ファーム」での田植え体験
  3. 地域の方と実施した水田調査体験会(荒川上流エリア)
  4. ジャパンバードフェスティバル(JBF)の様子
  5. 市内小学生を対象にしたゲストティーチャー授業
- [写真] 1. 小山市、2. いすみ市、4. 我孫子市、5. 鴻巣市







左. 渡良瀬遊水地第2調節池中. 関東地域が目指す到達目標のイメージ  
右. 関東エコロジカル・ネットワーク  
ロゴマーク



上. 水域連続性確保策による生態系ネットワークの強化(利根運河の城の越排水樋管)  
下. ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦  
[写真] 下. 小山市



上. 各エリアの環境保全に留意したブランド米  
下. コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会  
[写真] 上. コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム



川からはじまる 川から広がる 魅力ある地域づくり

# 氾濫原・湧水帯・本川・支川の 生きものとの共生

木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）が流れる濃尾平野では、かつての豊かであった生物多様性を取り戻そうと、地域のNPOなどによってイタセンバラ・ハリヨなどの保全活動が盛んに行われていました。

中部地方整備局では、有識者やNPO、自治体、企業などの多様な主体と共に「木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会」を設立し、共通目標を“様々な生きものと共生できる安全・安心な地域づくりや、生きものも育む農業を通じた地域の魅力向上”と掲げ、生息環境の保全・再生や、地域と連携した普及啓発活動として環境学習会を開催するなど様々な取組を進めています。

また、活動団体間の連携・協働の促進を目的とした「木曾三川流域エコネット応援団」を結成するとともに、交流会を開催し、活動発表や意見交換を行っています。



1.ハリヨ復活のための放流活動 2.氾濫原の指標種イタセンバラ 3.湧水帯の指標種ハリヨ 4.本川・支川の指標種ニホンウナギ 5.ハリヨ保全池の整備(海津市北部浄水公園)



左.取組の対象エリア  
右上.木曾川ワンド環境の再生  
右下.地域の活動団体の交流会  
「愛称:エコネットカフェ」



上.イタセンバラを題材としたミュージカル  
下.海津市ハリヨシンポジウム

# 川、そして里地里山の取組が コウノトリの野生復帰を支える

平成27年10月、福井県越前市において、この地で50年ぶりに生まれたコウノトリが放鳥されました。昭和45年にこの地域で保護されたくちばしの折れたコウノトリ「コウちゃん」を兵庫県に託した際の「必ず空に帰す」という約束が果たされた瞬間でした。これまでに4回の放鳥が実施され、累計9羽が福井の地から野生復帰を果たしています。

九頭竜川流域では、近畿地方整備局、福井県、関係市町、学識者が連携して、人と水辺の生きものが共生できる持続可能な地域づくりを進めるため、平成27年に「福井県流域環境ネットワーク協議会」を設立し、人とコウノトリ等の水辺の生きものが共生できる自然環境づくり等に取り組んでいます。



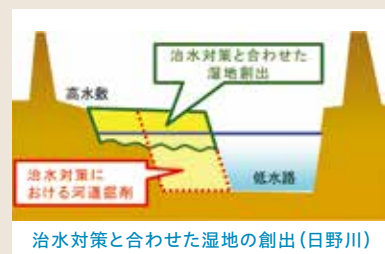
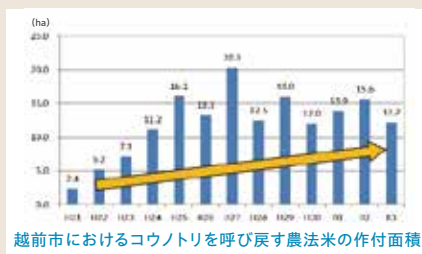
上. 日野川片粕地区(平成30年8月竣工)の施工例

下. 福井県によるコウノトリの放鳥(平成30年9月17日)

左. 特別栽培米 コウノトリを呼び戻す農法米  
右. 無農薬米を使用した純米吟醸酒



【写真】  
越前市



流域で実施されている  
里地里山の保全再生(越前市)

左. 退避溝(たいひみぞ)\*  
中. 水田魚道 右. ビオトープ  
\*退避溝は、田んぼの一部を溝状に掘り下げることによって、水生生物が中干しなどの渇水時に退避し生息し続けることができるようにする施設

## コウノトリと人が共生する環境の再生を目指して かつての円山川にあった良好な河川環境を再生

かつてコウノトリは日本各地で見られる鳥でしたが、生息環境の悪化により数を減らし、昭和46年に日本の空から姿を消しました。国内最後の生息地であった兵庫県豊岡市では、「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を通じて多様な主体が連携し、コウノトリの野生復帰に向けた取組を進めています。

例えば県と市が連携して保護増殖や放鳥を実施しているほか、「コウノトリ育む農法」と呼ばれる無農薬・減農薬農法の普及に努めています。また、近畿地方整備局豊岡河川国道事務所では、自然環境の保全・再生を実施していくために、地域、関係機関、学識者等との連携を継続的に行い、環境教育やモニタリング調査の連携実施を促進するとともに、整備の完了した湿地の維持管理を進めています。また、加陽湿地の整備を契機に、ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」の区域が560haから1,094haに拡張され、再生された湿地等で多数のコウノトリが採餌している姿が確認されています。コウノトリの採食地として活用される湿地の再生を行うなど、平成25年3月に策定された河川整備計画の下、引き続き、関係機関や地域の取組とも連携して、円山川総合水系環境整備事業の河川を基軸とする生態系ネットワークの形成を進めていきます。



コウノトリ関連商品



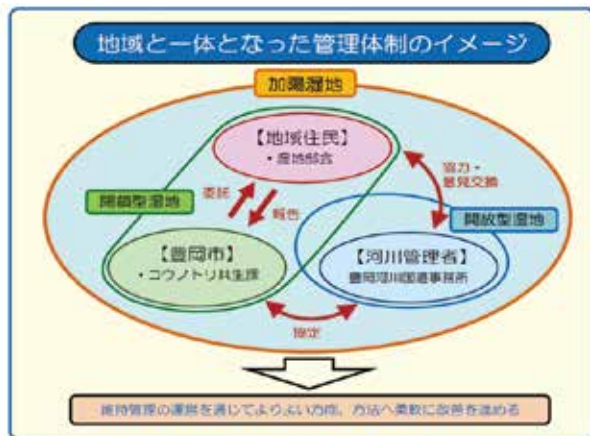
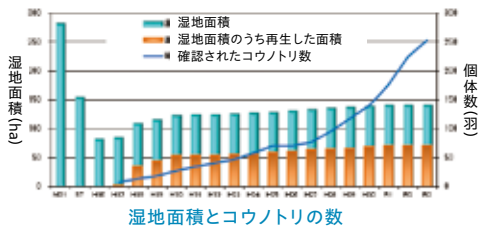
左.環境学習問診型  
モニタリング調査  
右.フジバカマ  
下.アサギマダラ



上.地元河川協力団体による外来植物の駆除  
下.地元企業のCSR活動による外来植物の駆除



加陽湿地(令和4年8月)





# 平安時代から続く みやこ京の文化の継承・発展

日本では、古来、秋の虫たちの奏でる音が人々に親しまれ、虫の音を風流に楽しみ、愛でる文化が育まれてきました。しかし、身近な場所に鳴く虫が少なくなったことなどから鳴く虫文化は衰退しています。

そのような中で、京都市内の桂川や鴨川の河川敷などの草地には、現在もマツムシやスズムシといった鳴く虫が生息しています。これらの鳴く虫と共存し、地域の魅力として農業や観光、自然体験・環境教育等に活かしていくことは、人と自然のかかわりの再構築や京都の文化・産業の発展につながると期待されます。

近畿地方整備局淀川河川事務所では、「鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会」を設立し、京都市内の桂川とその支川の流域において、多様な主体の連携・協働により、野草が花咲き、虫の音が響く自然環境を保全・再生するとともに、鳴く虫文化を継承し、地域・人づくりに活かしていく取組を始めています。



1. マツムシ 2. スズムシ 3. クツムシ 4. ヒガシキリギリス 5. 桂川と京都市街地  
[写真]日本生態系協会



左. 桂川の河川敷の草地 中. 桂川の河川敷 右. 第1回協議会 [写真]左、中. 日本生態系協会

## 神話の國に 大型水鳥5種が舞う

斐伊川及び神戸川流域は、ラムサール条約湿地の宍道湖・中海や斐伊川などの豊かな水辺環境とその周辺に水田地帯が広がり、日本を代表する大型水鳥類5種群が安定的に生息可能なポテンシャルを有する希有な地域です。当流域では、2015年度に協議会を立ち上げ、専門家や関係団体、行政等と連携し、大型水鳥類をシンボルとした斐伊川水系の生態系ネットワークの形成に向けた取組を、環境づくりと地域づくりの両面から進めています。

具体的には、地域の自然環境の素晴らしさと、それを守る取組の大切さを地域に伝え、地域活性化や経済振興にもつなげていくため、環境学習に加え、地元観光協会と共にマガンのねぐら入りを見学するツアーなどを開催しています。あわせて、河川や湖沼における自然再生や環境保全型の水田づくりなどを進め、大型水鳥類が安定的に生息できる環境づくりを目指します。



地域主催のイベントで、生態系ネットワークの取組を紹介し  
共感の輪を拡大



1. 宍道湖へねぐら入りするマガンの群れを観察するツアーが人気
  2. 田で羽を休めるコハクチョウ
  3. 冬の田にたたずむナベヅルの家族
  4. 雪の舞う中、降り立つマガン
  5. 斐伊川の中洲に降り立ったコウノトリ
  6. 出雲市で分散飼育しているトキ
- 【写真】2. 佐藤仁志、3,4. 千家国彦、6. 出雲市



斐伊川水系  
水鳥プロジェクト

協議会の愛称と、シンボルマーク

## ツルが越冬し、コウノトリが繁殖する 魅力的な四国づくり

近年、四国圏域の各流域において、地域の自然環境の豊かさを示す存在であるコウノトリやナベヅル・マナヅル等の飛来が多くなりつつあることから、四国が一つとなった「魅力的な四国づくり」の実現に向けた生態系ネットワークの形成・拡大を進めています。

吉野川流域では、兵庫県豊岡市周辺以外としては全国で初めてとなるコウノトリの野外繁殖に近年連続して成功していることから、コウノトリの定着と繁殖を目指し、関連主体が連携・協働して様々な取組を進めており、地場産業とのコラボレーションやブランド化が展開されています。

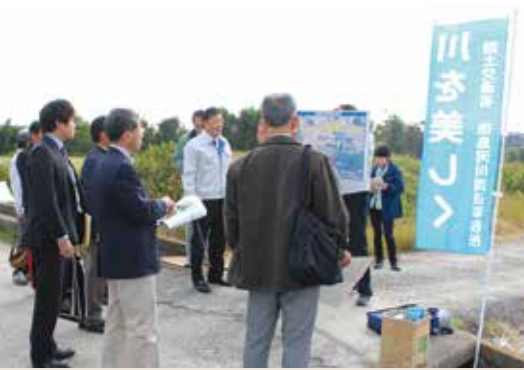
四万十川流域では、平成25年度にツル類がねぐらとして利用できるよう河川内に整備した人工湿地でマナヅル2羽が越冬し、平成29年度～令和元年度には、四万十川において記録が残る中では初めてとなる3年連続でのツル類の越冬が実現しています。地域団体と協働し、ツル類の観察マナーの向上や地元小中学生への環境学習の推進に加え、ツル類の越冬地の先進地域である鹿児島県出水市の小中学生との交流授業を行うなど、ツル類の保全活動をテーマとした地域間交流にも取り組んでいます。

四国の豊かな自然と特色ある風土を活かしつつ、生態系ネットワーク形成による地域活性化、経済振興の実現を目指した取組の推進が重要であり、各流域における活動の継続に加え、地域間での連携調整を行い、四国全域へネットワークの展開を目指していきます。



徳島県鳴門市で野外繁殖したコウノトリ [写真]日本生態系協会





左.生態系ネットワークの形成、自然再生の検討に向けての地域ワーキング現地調査 (徳島県鳴門地域)  
 右.四万十川支川中筋川の中山地区における湿地(ツルのねくら)再生 (高知県四万十市)

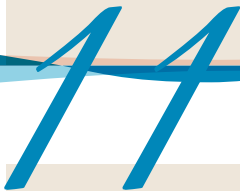


1.ツルのデコイ設置体験  
 2.高知県四万十市で越冬するマナヅル  
 3.耕作放棄地のビオトープ化を実施  
 4.環境学習(ツルの自然体験学習会)  
 [写真] 2.夕部 眞一、3.NPO法人とくしまコウノトリ基金



1.鳴門市は、環境に優しい取組から生産される農産物などを「コウノトリおもてなし」ロゴマークで認定  
 2.ハス田で採食するコウノトリ(徳島県鳴門市)  
 3.認証農産物の第1号として特別栽培レンコン「コウノトリおもてなしれんこん」誕生  
 [写真] 2.日本生態系協会、3.徳島北農業協同組合

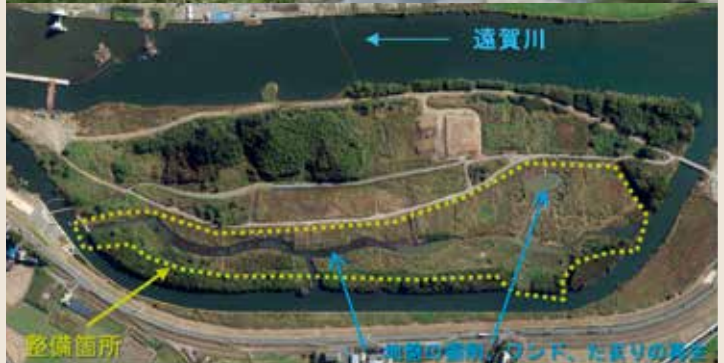
川からはじまる 川から広がる 魅力ある地域づくり



## 流域が一体となり かつての自然環境を取り戻す

遠賀川は、江戸期より昭和50年代まで石炭産業が栄えた地域で、近代産業革命や戦後復興を支えてきたこともあり、水質の悪化や河川改修による瀬・淵の減少、湿地環境等が損なわれてきましたが、近年は汚水処理の進捗や多自然川づくり等により、徐々に多様な生物が生息・生育する環境が再生されつつあります。

遠賀川流域では、これまで各地で森林保全や河川の自然再生、環境学習などの取組が行われてきましたが、流域レベルで生態系ネットワーク形成に取り組むため、遠賀川河川事務所が「遠賀川流域生態系ネットワーク形成推進協議会」を平成30年に設立し、国、県、流域21市町村と地域の方々とが連携しながら、流域の自然環境を石炭産業が盛んになる明治期以前の状態に近づけるという意識を共有していきます。また、自然を活かした地域づくり等の実現に向けた取組を進めていきます。



上. 河川の縦断的連続性の保全・再生 遠賀川河口堰の多自然魚道  
中. 河川とその周辺の横断的連続性の再生 御徳地区における樋管の落差解消  
下. 河川における湿地環境の再生 中島地区の自然再生事業  
左. 遠賀川流域に飛来したコウノトリ(令和4年11月撮影)



人の営みと自然が調和した  
森林環境の保全・再生

- 1. 増えすぎた竹の伐採活動
- 2. メンマづくりで竹林再生
- 3. 竹炭による河川の浄化作戦

川からはじまる 川から広がる 魅力ある地域づくり

# 財政支援

取組に必要な資金の確保には、自治体におけるふるさと納税、基金の設置、また、クラウドファンディングの活用のほか、国の交付金や民間助成金等を活用する方法があります。

## 国の交付金等の例

### 【生態系ネットワーク財政支援制度集】

国土交通省・農林水産省・環境省では、生態系ネットワークの形成に資する交付金等の支援メニューと、活用団体の紹介をしています。

- 生物多様性の保全再生に資する活動
- 魚道やワンドの整備、樋門等における段差の解消 ● 森林の整備
- 治山ダムへの魚道の設置 ● 里山の保全 ● 環境保全型農業の取組
- 水田の生物多様性の確保 ● 内水面の生態系の保全 ● 漁場施設の整備
- エコツーリズムの活動



PDF掲載ページ ▶



## 民間助成金の例

### 【国内各地の取組を対象とした民間助成金の例】

#### イオン環境財団のイオン環境活動助成

【対象】 里山（里地・里川・里湖・里海を含む）の保全・維持・管理等に取り組む非営利団体

#### 公益財団法人河川財団の河川基金

【対象】 河川や流域への理解を深めることにより、川や流域を健全な姿に変える、あるいは戻すための活動を行う市民団体等

【助成額】 川づくり団体部門の場合、30～500万円

#### 独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金

【対象】 民間の非営利団体（NGO・NPO）が行う生物多様性の保全等の分野での環境保全活動（実践、知識の提供・普及啓発、調査研究、国際会議）

#### 公益信託サントリー世界愛鳥基金

【対象】 コウノトリ・トキ・ツル等の保護、生息環境となる水田、湿原などの整備等を行う団体等

【助成額】 水辺の大型鳥類保護部門の場合、1件当たり1,000万円程度

#### 一般財団法人セブン-イレブン記念財団の環境市民活動助成

【対象】 自然環境保護や生物多様性の保全の取組等の市民が主体となって行う環境活動

【助成額】 活動助成の場合、1団体当たり最大100万円

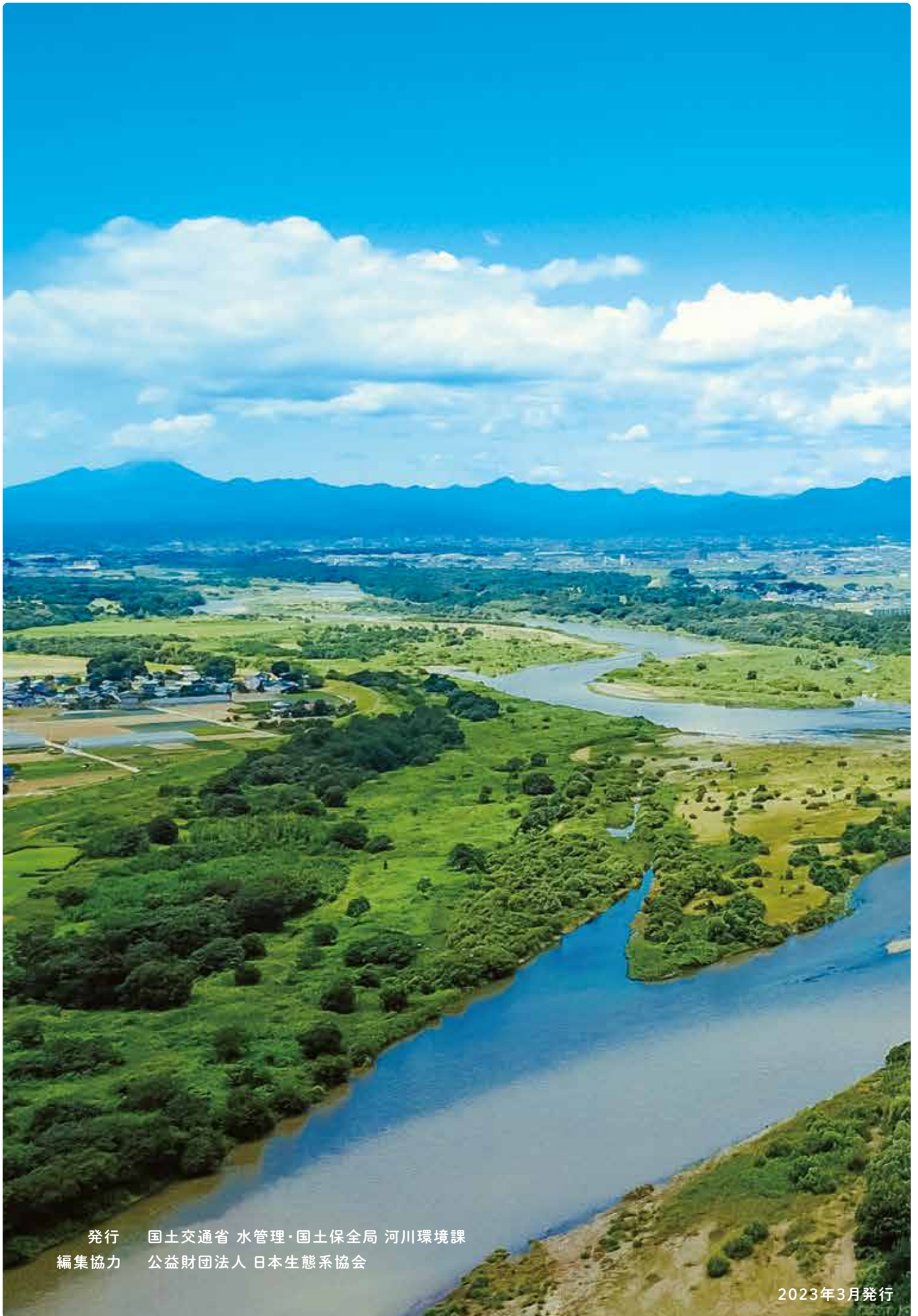
#### 一般財団法人地域活性化センターの地方創生に向けて"がんばる地域"応援事業

【対象】 「地方創生」に向けて、市町村または地域団体等が自主的・主体的に実施する自治体・地域・集落の消滅可能性の危機打開等に向けた事業

【助成額】 一般事業の場合、1件につき150万円

そのほか、一般社団法人関東地域づくり協会等の各地の地域づくり協会、公益財団法人サイサン環境保全基金（埼玉県）、一般財団法人千葉県環境財団（千葉県）等、助成団体のある一定の地域内の取組を対象とした助成金があります。

注：この情報は、令和4又は5年度募集要綱等に基づく情報です。最新の情報は、各助成金のウェブサイトにてご確認ください。



発行 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課  
編集協力 公益財団法人 日本生態系協会

2023年3月発行